

| | | | |
|------------|---------------------|----------|--------------------------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 数学課外講習（基礎） | 2 | 1年・1類 | |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 新編 数学I、新編 数学A（数研出版） | | Study-Up ノート 数学I・A（数研出版） |

| |
|--|
| 科目の到達目標 |
| 基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、 |
| 数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法について |
| 評価は「知識、技能」「思考、判断、表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて行う。 |
| 具体的には、取り組む姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-------------|---|---|----------------------------------|---|---|
| 一 学 期 | 4 | (数学A) 第1章 数と式 第1節 整式 | 整式の演算、因数分解が確実にできるようにする。 | 多項式の加法と減法 多項式の乗法 さまざまな因数分解 | 展開、因数分解が速く・正確にできる |
| | 5 | (数学I) 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ | 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 | 2次関数のグラフと平行移動 2次関数の決定 | 平方完成ができる。また、2次関数のグラフの関係を理解し、グラフをかくことができる。 |
| | 6 | (数学A) 第1章 数と式 第2節 実数 第3節 1次不等式 | 絶対値記号を理解し、絶対値を含む方程式・不等式が解けるようにする | 絶対値を含む方程式・不等式 実数 分母の有理化 | 根号を含む式の計算ができる |
| | 6 | (数学I) 第3章 2次関数 第2節 2次関数の値の変化 2次関数の最大・最小 | 2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 | 2次関数の最大・最小 最大・最小の応用 2次関数のグラフとx軸との交点 | |
| | 7 | 第3節 2次方程式と2次不等式 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式 | 2次不等式の解を求めることができるようにする。 | 2次関数のグラフと2次不等式 | グラフを用いて、2次方程式・不等式を解いたり、解の個数を求めたりすることができる。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|---|-------------|---|---|--|---|
| 二 学 期 | 9 | (数学A) 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 | 具体的な事象の考察を通して、順列・組合せについて理解する。 | 順列・円順列・重複順列 組合せ 組合せと絡めた総合問題 | 順列・組合せの問題を解くことができる。 |
| | 10 | (数学I) 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 正弦定理 余弦定理 | 三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。 | 鋭角の三角比 $180^\circ - \theta$ の三角比 三角比の相互関係 | 三角比の定義、基本公式を理解している。 図形に応用できる。 |
| | 11 | (数学A) 第1章 場合の数と確率 第2節 確率 | 順列・組合せを用いて確率を求める。事象を数学的に考察し処理することができるようにする。 | 試行、根元事象、確率の定義、排反事象、加法定理、余事象 独立な試行 反復試行の確率 | 確率を正確に計算することができる。 |
| | | (数学I) 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用 | 角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できる。 | 直線の傾きと正接 正弦定理・余弦定理とその応用 | 正弦定理、余弦定理を正確に利用できる。 |
| | 12 | 第2章 集合と命題 | 集合についての基本的な事項を理解し、統一的に見ることの有用性を認識する。 | 集合の表し方、集合の要素の個数 ド・モルガンの法則 命題と条件 逆・裏・対偶 | 集合の要素の個数を求めることができる。 |
| | 三 学 期 | 1 2 3 | (数学I) 第5章 データの分析 (数学II) 第1章 式と証明 (数学A) 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形 | 統計の基本的な考えを理解し、データを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 式と証明についての理解を深める。 平面図形、空間図形の基本的な定理を習得し、思考力をつける | 度数分布表、ヒストグラム 平均値・中央値・最頻値 四分位数、分散・標準偏差 2年次の内容に入る。(数II) ・整式の除法と分数式 三角形の重心・外心・内心 メネラウス・チェバの定理 円周角の定理 円に内接・外接する四角形 方べきの定理 円と共通接線 |
| <p>その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)</p> <p>数学I・Aの授業は早いペースで進んでいくので、本講習では問題集 (Study-Up ノート数学I・A) の問題演習を基本とし、基礎的な学力の定着を図ります。基本問題を中心として行いますが、授業内容についていくためにも標準問題も取り入れつつ、日々の復習を大切にしていきます。真剣な態度で受講し、講習中だけでなく寮や自宅での学習習慣を身に付けていってほしいと思います。できなかった問題でも何度も繰り返し解くことで理解を深め、確かな学力を身に付けてほしいです。</p> | | | | | |

| | | | |
|-------------|----------------------|----------|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 数学課外講習(指名者) | 2 | 1年・1類 | |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 新編 数学I、新編 数学A (数研出版) | | プリント |

| |
|---|
| 科目の到達目標 |
| 基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、 数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法について |
| 評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点の観点に基づいて 具体的には、取り組み姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-------------|---|---|--|--|---|
| 一 学 期 | 4 | (数学A) 第1章 数と式 第1節 整式 | 整式の演算、因数分解が確実にできるようにする。 | 多項式の加法と減法 多項式の乗法 さまざまな因数分解 | 展開、因数分解が速く・正確にできる |
| | 5 | (数学I) 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 2次関数の最大・最小 | 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 | 2次関数のグラフと平行移動 2次関数の決定 2次関数の最大・最小 | 平方完成ができる。また、2次関数のグラフの関係を理解し、グラフをかくことができる。 |
| | 6 | (数学A) 第1章 数と式 第2節 実数 第3節 1次不等式 | 絶対値記号を理解し、絶対値を含む方程式・不等式が解けるようにする | 絶対値を含む方程式・不等式 実数 分母の有理化 | 根号を含む式の計算ができる |
| | 7 | (数学I) 第3章 2次関数 第3節 2次関数と方程式・不等式 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式 | 2次不等式の解を求めることができるようにする。 | 2次関数のグラフとx軸との交点 2次関数のグラフと2次不等式 | グラフを用いて、2次方程式・不等式を解いたり、解の個数を求めたりすることができる。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント | |
|-------------|--|---|--|---|--|--|
| 二 学 期 | 9 | (数学I) 第2章 集合と命題 | 集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識する。 | 集合の表し方, 集合の要素の個数 ド・モルガンの法則 命題と条件 逆・裏・対偶 | 集合の要素の個数を求めることができる。 | |
| | 10 | (数学A) 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 順列・組合せ | 具体的な事象の考察を通して、順列・組合せについて理解する。 | 順列・円順列・重複順列 組合せ 組合せと絡めた総合問題 | 順列・組合せの問題を解くことができる。 | |
| | 11 | (数学I) 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 正弦定理 余弦定理 | 三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。 | 鋭角の三角比 $180^\circ - \theta$ の三角比 三角比の相互関係 | 三角比の定義、基本公式を理解している。図形に応用できる。 | |
| | 12 | (数学A) 第1章 場合の数と確率 第3節 確率とその基本性質 第4節 いろいろな確率 | 順列・組合せを用いて確率を求める。事象を数学的に考察し処理することができるようにする。 | 試行、根元事象、確率の定義、排反事象、加法定理、余事象 独立な試行 反復試行の確率 | 確率を正確に計算することができる。 | |
| | 1 | (数学I) 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用 | 角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できる。 | 直線の傾きと正接 正弦定理・余弦定理とその応用 | 正弦定理、余弦定理を正確に利用できる。 | |
| | 2 | (数学A) 第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質 | 平面図形の基本的な定理を習得し、思考力をつける | 三角形の重心・外心・内心 メネラウス・チェバの定理 円周角の定理 円に内接・外接する四角形 方べきの定理 円と共通接線 | 三角形の重心・外心・内心に関する角度および長さを求められる内接四角形の性質を理解し、角度・長さを求められる。 | |
| | 3 | (数学I) 第5章 データの分析 | 統計の基本的な考えを理解し、データを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 | 度数分布表, ヒストグラム 平均値・中央値・最頻値 四分位数, 分散・標準偏差 | | |
| | 1 | (数学II) 第1章 式と証明 | 式と証明についての理解を深める。 | 2年次の内容に入る。(数II) ・整式の除法と分数式 | 多項式の計算が正しくできる。 | |
| | <p>その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)</p> <p>数学Iの単位が3, 数学Aの単位数が2である。授業は早いペースで授業を進められる。この講習では、教科書の練習問題の復習をプリントを用いて行う。数学I、Aの授業についていけるように標準問題も取り入れていくつもりである。真摯な態度で受講することを強く望む。日々継続した学習を心がけて、寮や自宅での学習習慣を身に付けてもらいたい。何度も何度も繰り返し問題を解いて、本当の学力をつけてほしい。</p> | | | | | |

| | | | |
|----------|-----------------|--------------------------|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 大学入試準備講習 | 1 | 1年1類 | 選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | 副教材等 | |
| ***** | 新編 数学I・A (数研出版) | チャート式 基礎と演習 数学I+A (数研出版) | |

| |
|--|
| 科目の到達目標 |
| 基礎的な計算力と解法の定石を身につける。また、発展問題等を扱い大学入試に直結する学力を養う。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法について |
| 評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点に基づいて、 |
| 平素の学習意欲、学習態度、出席状況、小テストによって総合的に行なう。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-----|----|---------|--|---|---|
| 一学期 | 4 | 数と式 | 左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。 | 展開・因数分解、無理数の計算、1次不等式、平方完成、2次方程式、2次不等式の計算練習を行う。その後、夏期講習を利用して、標準的、発展的な問題の演習を行う。 模試前には、模試対策を行う。 | 出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。 |
| | 5 | 実数 | | | |
| | 6 | 1次不等式 | | | |
| | 7 | 2次関数 | | | |
| 二学期 | 10 | 三角比 | 左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。 | 三角比の相互関係、三角比の値、正弦定理、余弦定理の計算練習を行う。その後、冬期講習を利用して、標準的、発展的な問題の演習を行う。 模試前には、模試対策を行う。 | 出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。 |
| | 11 | 三角比への応用 | | | |
| | 12 | | | | |
| 三学期 | 1 | データ分析 | 左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。 | 分散、標準偏差、相関係数 整式の割り算、分数式と計算、 3次式の因数分解の計算練習を行う。 共通テスト後には共通テストを行う。 | 出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。 |
| | 2 | 式と証明 | | | |
| | 3 | | | | |

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

大学への進学に対応できる力をつけることを念頭に授業を進めます。学力の定着を図るために、教科書や問題集で毎日、家庭学習をすることを求めます。また、授業の進度に合わせて課題を出します。日々の疑問を残すことのないよう質問に積極的に来てください。

| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
|----------|------------|----------|-------------------|
| 基礎講習（英語） | 2 | 1年I類 | 希望者 |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | テキストは指定しない | | 必要に応じてハンドアウトを配布する |

【科目の到達目標】(Purposes of the Course)

高校での英語学習に必要な基礎知識を固め、大学受験に向けて応用した内容も並行して学んでいく。実生活の中で使用する英語コミュニケーションを実践的な練習を交えて学び、言語そのものや文化についても興味を持てるようなトレーニングを行うことでより高い英語能力の習得を目指す。

【評価の観点と方法について】(Grading Procedure)

本講習では、授業内での発言や態度など積極性を主に評価する。単元毎に理解度を測るための筆記及び実技のクイズを実施する。

| | 月 | 学習単元・項目 | ねらい | 方法・活動 |
|-------------|---|---|--|--|
| 一 学 期 | 4 | | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習してきた文法事項に加え、より多くの英語表現を学ぶことで、英語に触れる機会を増やしさらなる定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを学ぶ ・演習問題を通して表現に慣れる。 ・実際に学んだ表現を用いて英文を書いたり話したりする。 |
| | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習する単元の復習をしながら、通常の授業では扱えない内容にも積極的に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・英語への興味、関心を高め、能動的に英語学習に取り組めるようにする。 | |
| | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講生からの希望も随時反映しながら進める。 | | |
| | 7 | | | |

| | 月 | 学習単元・項目 | ねらい | 方法・活動 |
|-------------|----|---|--|--|
| 二 学 期 | 9 | | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習してきた文法事項に加え、より多くの英語表現を学ぶことで、英語を読むとき、書くときに、意識の範囲を広げていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを学ぶ ・演習問題を通して表現に慣れる。 ・実際に学んだ表現を用いて英文を書いたり話したりする。 |
| | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習する単元の復習をしながら、通常の授業では扱えない内容にも積極的に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・英語への興味、関心を高め、能動的に英語学習に取り組めるようにする。 | |
| | 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講生からの希望も随時反映しながら進める。 | | |
| | 12 | | | |
| 三 学 期 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習する単元の復習をしながら、通常の授業では扱えない内容にも積極的に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習してきた文法事項に加え、より多くの英語表現を学ぶことで、英語を読むとき、書くときに、意識の範囲を広げていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを学ぶ ・演習問題を通して表現に慣れる。 ・実際に学んだ表現を用いて英文を書いたり話したりする。 |
| | 2 | | | |
| | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講生からの希望も随時反映しながら進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・英語への興味、関心を高め、能動的に英語学習に取り組めるようにする。 | |

【その他(履修上の留意点・大学等進学のための学習など)】

通常の授業の復習をしながら、応用に発展させていきます。また、授業では十分にカバーできない単元や活動にも積極的に取り組んでいきたいと思えます。海外の文化や習慣を紹介する機会を多く取り入れ、実生活の中でよく使われるフレーズなどを学び、実践形式で学んでいきます。少し英語に興味がある、という生徒がもっと英語を好きになれるような授業をしたいと思えますので、講習内容の要望や、学びたい内容があれば、申し出てください。

| | | | |
|----------|--|--|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 指名者講習 英語 | 2 | 1年1類 | 選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | 副教材等 | |
| ***** | be English Logic and Expression I Clear | be Clear Essential Grammar Book / ユメタン0 | |

| |
|--|
| 科目の到達目標 |
| ○普段の授業の復習をし、定期考査でコミュニケーション英語と英語表現のどちらも点数が取れるようになる。 |
| ○積極的に取り組み英語に慣れようとする態度が身に付いている。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法について |
| 出席状況・プリント・ノート等の提出、宿題・提出物の内容、小テスト、学習態度等に基づいて算出する。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-------------|---|------------------|--|---|---|
| 一 学 期 | 4 | Lesson 1 現在 | 基本的な時制の構造と概念を理解し、伝えたいことを適切な時制を用いて書いたり話したりすることができる。 | 各単元の文法事項の確認をし、出てきた表現を使い実際にペアワークをすることで理解を深め、定着を図る。 | ①授業に積極的に参加しているか。 ②板書事項をしっかりと理解しているか。 ③予習・復習がなされているか。 ④小テストや課題にしっかりと取り組んでいるか。 |
| | 5 | Lesson 2 過去 | 現在・過去・未来完了形概念を理解し、それぞれの用法を区別することができる。 ユメタン001 ~ 100 | | |
| | 6 | 中間考査 | | | |
| | | Lesson 3 未来 | | | |
| | 7 | Lesson 4 完了形① | | | |
| | | Lesson 5 完了形② | ユメタン101 ~ 250 | | |
| | | 期末考査 | | | |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-------------|----|-------------------|---|-------------|-------------------------|
| 二 学 期 | 9 | Lesson 6 助動詞① | 助動詞のそれぞれの意味と用法を理解し、適切に使い分けて表現することができる。 | | ①授業に積極的に参加しているか。 |
| | | Lesson 7 助動詞② | | | ②板書事項をしっかりと理解しているか。 |
| | | Lesson 8 助動詞③ | 受動態を用いた様々な文の構造や意味を理解し、必要に応じて使い分け、適切に伝えることができる。 | | ③予習・復習がなされているか。 |
| | | Lesson 9 受動態 | ユメタン | | |
| | 10 | 中間考査 | 不定詞の様々な用法を学び、より詳細な情報を伝えることができる。 | | ④小テストや課題にしっかりと取り組んでいるか。 |
| | | Lesson 10 不定詞① | | | |
| | | Lesson 11 不定詞② | | | |
| | | Lesson 12 不定詞③ | | | |
| | 11 | 期末考査 | ユメタン | | |
| | 12 | | | | |
| 三 学 期 | 1 | Lesson 13 動名詞 | 動名詞の様々な用法を学び、動名詞句を使用した多様な文で伝えることができる。 | | |
| | 2 | Lesson 14 分詞① | 名詞を修飾する用法や補語になる用法、また分詞構文や付帯状況を表す分詞を用いて表現することができる。 | | |
| | 3 | Lesson 15 分詞② | ユメタン | | |
| | | 学年末考査 | | | |

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

高校1年生の英語は英語コミュニケーションと論理表現の2種類があります。それらが、1週間で5時間毎日あります。それらを週2時間の補修で補うとすれば、講習以外での普段の努力が大変重要となります。特に中学で苦手となった者は、中学の復習を自分でして下さい。わからなければ質問に応じます。この講習では、英語表現を中心に復習します。例年英語表現の方が苦手なものが多いからです。また講習の授業毎に確認テストを行います。それが、そのまま定期考査につながるの、積極的に取り組んで下さい。

| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
|--------|-------------------------------|----------|-----------------------------|
| 入試準備講習 | 1 | 1年I類 | 選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 『BIG DIPPER I (音声 CD 含む)』(数研) | | 『ユメタン0』(アルク) ハンドアウト、アプリ等 |

【科目の到達目標】(Purposes of the Course)

本講習では、大学受験に向けて通常の授業では十分にカバーしきれない部分に焦点を合わせ、より実践的な英語力習得を目指す。併せて、実用的な英語学習方法を紹介していくので、希望進路を問わず、英語に興味を持つ生徒諸君の受講を歓迎する。

【評価の観点と方法について】(Grading Procedure)

本講習では、原則毎時間の冒頭に英単語の小テストを実施し、各自の取り組みや語彙習得度合いを小テスト結果により確認する。

| | 月 | 学習単元・項目 | ねらい | 方法・活動 |
|-------------|---|---|--|---|
| 一 学 期 | 4 | レベル確認テスト ユメタン0 1~50 Lesson 1 Part 1 | ・スタート時点での実力を把握 ・授業で扱った題材を使用し、様々な活動を通してより理解を深めながら4技能の向上を図る | ・テスト ・ユメタンの勉強方法の紹介 |
| | 5 | ユメタン0 51~100 Lesson 1 Part 2 | ・語彙力の強化 | ・Listening、Dictation、英文和訳、音読トレーニング、Back Translation など多岐にわたる活動を実施 |
| | | ユメタン0 101~150 Lesson 1 Part 3 | ・学習アプリを利用して自宅学習を数値化し、継続的な学習を促す | |
| | | ユメタン0 151~200 Lesson 2 Part 1 | ・英語学習の基礎を身に付ける | |
| | 6 | ユメタン0 201~250 Lesson 2 Part 2 | | |
| | | ユメタン0 251~300 Lesson 2 Part 3 | | |
| | 7 | ユメタン0 301~350 Lesson 3 Part 1 | | |
| | | ユメタン0 351~400 Lesson 3 Part 2 | | |

| | 月 | 学習単元・項目 | ねらい | 方法・活動 |
|-------------|----|----------------------------------|---|--|
| 二 学 期 | 9 | ユメタンO 401~450 Lesson 4 Part 1 | <ul style="list-style-type: none"> 授業で扱った題材を使用し、様々な活動を通してより理解を深めながら4技能の向上を図る 語彙力の強化 | <ul style="list-style-type: none"> Listening、Dictation、英文和訳、音読トレーニング、Back Translation など多岐にわたる活動を実施 |
| | | ユメタンO 451~500 Lesson 4 Part 2 | | |
| | 10 | ユメタンO 501~550 Lesson 4 Part 3 | <ul style="list-style-type: none"> 学習アプリを利用して自宅学習を数値化し、継続的な学習を促す | |
| | | ユメタンO 551~600 Lesson 5 Part 1 | <ul style="list-style-type: none"> 英語学習の基礎を身に付ける | |
| | | ユメタンO 601~650 Lesson 5 Part 2 | | |
| | 11 | ユメタンO 651~700 Lesson 5 Part 3 | | |
| | | ユメタンO 701~750 Lesson 5 Part 4 | | |
| | 12 | ユメタンO 751~800 Lesson 6 Part 1 | | |
| 三 学 期 | 1 | ユメタンO 1~400 Lesson 7 Part 1 | <ul style="list-style-type: none"> 授業で扱った題材を使用し、様々な活動を通してより理解を深めながら4技能の向上を図る 語彙力の強化 | <ul style="list-style-type: none"> Listening、Dictation、英文和訳、音読トレーニング、Back Translation など多岐にわたる活動を実施 |
| | 2 | ユメタンO 401~800 Lesson 7 Part 2 | <ul style="list-style-type: none"> 学習アプリを利用して自宅学習を数値化し、継続的な学習を促す | |
| | 3 | | <ul style="list-style-type: none"> 英語学習の基礎を身に付ける | |

【その他(履修上の留意点・大学等進学のための学習など)】

国公立大学や有名私立大学を受験するというのは、言い換えれば、部活動で全国大会出場を目指すことと同じ意味であると考えています。そのためには毎日の練習・努力が欠かせません。

この講習では、共通テスト受験のための前準備として、基礎語彙力の向上と習得とともに「読む力」「聴く力」「体力」の向上を目指します。講習時間内での作業が多く、ただ受けていけばいいというものではありません。毎週単語テストと、多種多様な音読活動などを行います。授業時間だけでなく、隙間時間の有効活用や家庭学習が必須となります。まずは学習する習慣を身につけ、この一年で確かな英語力の土台作りと自信を獲得していきましょう。

| | | | |
|-------------|-----|---------------|-------------------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 国語科 (指名者講習) | 2 | 2年1類 | |
| 授業担当者 | | 教科書名 | 副教材等 |
| ***** | | 精選古典探究 (東京書籍) | 古文単語330(いっぴな書店) 他 |

| |
|---|
| <p>科目の到達目標</p> <p>言語文化の基礎的な内容の復習によって、一年次に学習したことの強化を図る。</p> <p>主に一年次の古典学習の基礎を復習し、授業の補習を行うことによって、授業内容の理解度を高める。</p> <p>適宜、小テストや定期考査対策を行い、学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を図る。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>評価の観点と方法について</p> <p>課題や授業プリントの提出と小テストによって、授業の理解度を確認するとともに、授業態度、中間・期末考査の成績の結果をもってその評価とする。</p> |
|---|

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 |
|-------------|---|---|---|--|
| 一 学 期 | 4 | 一年次の復習 動詞・形容詞・形容動詞 助動詞など | <ul style="list-style-type: none"> 古典文法の基礎を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> プリントを用いて古典の基礎的な内容を復習する。 |
| | 5 | 説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」 説話『古今著聞集』 「能は歌詠み」 | <ul style="list-style-type: none"> 物語の内容がとらえられているかを確認する。 敬語表現の基本的な知識が身につけているかを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 主語、語句の意味、助動詞の意味をおさえる。 敬語表現を復習する。 |
| | | 漢文 小話 「先従隗始」 | <ul style="list-style-type: none"> 故事成語の背景が正しくとらえられているかを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 訓読上のきまりをより正しく理解させる。 |
| | 6 | 1学期中間考査 | <ul style="list-style-type: none"> 中間テスト対策 | |
| | 7 | 歌物語『伊勢物語』 「初冠」 敬語法 随筆『枕草子』 | <ul style="list-style-type: none"> 物語の内容がとらえられているかを確認する。 自然や人間についての古人の優れた感性を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> 和歌の基本的な知識を身につける。 敬語表現が理解できているか確認するとともに、歌の修辞法などについて復習する。 |
| | | 漢文「不死之薬」 | <ul style="list-style-type: none"> 句法及び訓読の基本について、理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 訓読上のきまりをより正しく理解させる。 |
| | | 1学期末考査 | <ul style="list-style-type: none"> 期末テスト対策 | <ul style="list-style-type: none"> 現代文、古典ともに要点を整理する。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 |
|---|----|---|---|--|
| 二 学 期 | 9 | 1学期の復習 物語『更級日記』 「門出」「物語」 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎知識を定着させる。 日記の内容がとらえられているかを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な問題の解き方を身につける。 漢字や語句の意味、古文単語や古典文法を復習する。 重要単語や文法をおさえ、日記の内容を復習する。 |
| | 10 | 漢文 『史記』 「四面楚歌」 | <ul style="list-style-type: none"> 内容が理解できているか確認する。 中間テスト対策 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な句形や基本語句をおさえる。 書き下し文や口語訳の復習。 現代文、古典ともに要点を整理する。 |
| | 11 | 2学期中間考査 随筆『徒然草』 「悲田院の堯蓮上人は」 物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」「若紫」 | <ul style="list-style-type: none"> 作者の物の見方、価値観をふまえて考えを深める。 物語の内容がとらえられているか確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 重要単語や文法をおさえ物語の内容を復習する。 敬語を抜き出し、その種類と誰の誰に対する敬意かを確認する。 |
| | 12 | 漢文『史記』 「項王自刎」 2学期末考査 | <ul style="list-style-type: none"> 内容が理解できているか確認する。 期末テスト対策 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な句形や基本語句をおさえる。 書き下し文や口語訳の復習。 現代文、古典ともに要点を整理する。 |
| 三 学 期 | 1 | 2学期の復習 歴史物語『大鏡』 「花山天皇の出家」 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎知識を定着させる。 歴史的背景とその人間関係をおさえ、物語のあらすじがつかめているか確認する。 内容がとらえられているか確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な問題の解き方を身につける。 漢字や語句の意味、古文単語や古典文法を復習する。 重要語句や文法、敬語表現などを復習し、口語訳ができるようにする。 重要語や句法をおさえ、書き下しや口語訳を復習する。 |
| | 2 | 漢文「漁父辞」 | <ul style="list-style-type: none"> 内容が理解できているか確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な句形や基本語句をおさえる。 書き下し文や口語訳の復習。 |
| | 3 | 学年末考査 | <ul style="list-style-type: none"> 学年末テスト対策 | <ul style="list-style-type: none"> 現代文、古典ともに要点を整理する。 |
| <p>その他（履修上の留意点） 予習・復習を徹底して行い、課題や小テストにも意欲的に取り組むこと。</p> | | | | |

| | | | |
|------------|---------------------------------|----------|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 私立文系講習（国語） | 1 | 2年・1類 | 選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 「現代文解法のテクニック1」 「ニューエイジ古典 基礎」 | | プリント等 |

| |
|---|
| <p>科目の到達目標</p> <p>現代文読解の方法、基礎学力を身に着け、制限時間内に「はやく、正確に」読み、回答を導き出せるようになることを目指す。</p> |
|---|

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 |
|-------------|---|-------------------------------------|---|---|
| 一 学 期 | 4 | ・ 評論の読み方 | ・ 評論の読み方について理解する。 | ・ プリントを用いて、評論とは何かを理解し、筆者の主張を理解するための読み方を練習する。 |
| | 5 | ・ 接続詞 ・ 指示語 ・ 脱文挿入 | ・ 接続詞、指示語の役割を確認し、文章同士のつながりについて理解する。 | ・ 接続詞、指示語の役割について理解し、ワークを用いて、文章同士のつながりを確認する。 |
| | 6 | ・ 話題、問題提起、筆者の主張の読み取り ・ 抽象と具体 | ・ 話題、問題提起のとらえ方を理解する。 ・ 筆者の主張を読み取る。 ・ 文章読解における抽象と具体の役割を理解する。 | ・ 話題、問題提起を捉えるために、ワークを用いて頻出する語句や疑問形に注目する練習を行う。 ・ ワークを用いて、文章読解における抽象と具体の役割を理解し、筆者の主張の理解を深める読み方を練習する。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 |
|-------------|----|-----------------------------|---|---|
| 二 学 期 | 9 | ・対比 | ・文章読解における対比構造の役割を理解する。 | ・文章読解における対比構造の役割を確認し、ワークを用いて問題演習を行う。 |
| | 10 | ・内容説明 ・理由説明 ・段落分け | ・指示語、言い換え表現に注目し、文章の内容や理由を説明する。 ・文章内容ごとに段落分けを行い、文章理解を深める。 | ・ワークを用いて指示語がさす内容や言い換え表現に注目し、問題文の内容や理由を説明する練習を行う。 |
| | 11 | ・要約 | ・文章の要点をまとめて簡潔に説明する。 | ・筆者の主張を読み取り、本文に内容を簡潔に説明する練習を行う。 |
| | 12 | ・小説の読み方 ・心情理解 ・情景描写 | ・心情描写や情景描写の役割を理解する。 | ・比喩表現や擬態語に注目し、心情描写や情景描写を読み取る練習を行う。 |
| 三 学 期 | 1 | ・古文読解演習 | ・演習を通して、古文読解のための基礎知識を身につける。 | ・古文読解に必要な重要語句や文法、古典常識など、ワークを用いて理解し、古文の問題を解く練習を行う。 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

適宜、古文単語帳や古典文法ノートを用いて、古典の基礎知識を復習する。

| | | | |
|--------------|----------------|----------|-------------------------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 指名者講習 (数学ⅡB) | 2 | 2年・1類・B型 | 必修 |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 新編 数学ⅡB (数研出版) | | チャート基礎と演習数学Ⅱ+B+C (数研出版) |

| |
|--|
| 科目の到達目標 |
| 基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、 |
| 数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法について |
| 評価は「知識、理解」「関心、意欲、態度」「数学的な見方や考え方」「表現、処理」の4つの観点に基づいて評価をする。 |
| 具体的には、取り組み姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-------------|---|--|--|--|--|
| 一 学 期 | 4 | 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域 | (数Ⅱ) x、yで直線・円を表現する。 | 直線の方程式 2直線の関係 円の方程式 | 定理・公式を理解し、それを用いて基本問題を解くことができる。 |
| | 5 | 第1章 式と証明 第2節 複素数と方程式 | (数B) 高次方程式を、因数分解を利用して解く。 | 2次方程式の解と係数の関係 複素数の計算 剰余の定理・因数定理 | 複素数の計算を正しく行える。 2次方程式の解を求めることができる。 解と係数の関係を理解できる。 |
| | | <中間考査> 第3章 数列 第1節 等差数列・等比数列 第2節 いろいろな数列 | (数Ⅱ) 等差数列や等比数列についての基本的な知識及び計算技能を習得させると共に規則性を発見できる能力を養う。 | 等差数列・等差数列の和 等比数列・等比数列の和 いろいろな数列の和と記号Σ 階差数列と数列の和、いろいろな数列の和 | 数列の規則性を理解し、一般項を求めることができる。 Σ記号を使いこなせるか。 |
| | 6 | 第5章 指数関数と対数関数 | (数B) マクロやミクロの世界の物差しとしての対数の必要性を理解させる。定義をきちんと理解させる。 | 指数拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数・常用対数 | 指数計算、対数計算を正確にすることができる。 指数、対数の方程式、不等式を解くことができる。 |
| | 7 | <期末考査> | | | |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|--|----|---|--|---|--|
| 二 学 期 | 9 | 第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 | (数Ⅱ) 三角関数について理解し関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 | 加法定理 加法定理の応用 三角関数の合成 | 弧度法で表された角の三角比の値を求めることができる。 加法定理・三角関数の合成を用いて、三角方程式・不等式を解くことができる。 |
| | 10 | 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 <中間考査> | (数B) 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。 | 確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散 確率変数の和と積 | 確率変数の確率分布を求めることができる。 様々な確率変数の期待値や分散を、公式を利用して求めることが出来る。 |
| | 11 | 第6章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 第3節 積分 | (数Ⅱ) 現代数学の架け橋となった微分の定義を理解させその応用分野の広さを考えさせる。 | 微分係数・導関数 接線の方程式 増減表と極大・極小 不定積分 定積分と面積 | 微分係数の意味を理解しているか。その発展として導関数を自由にこなせるか。 微分の反対である積分を理解し定積分の応用に発展できるか。 |
| | 12 | <期末考査> | (数B) 連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。 | 確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散 確率変数の和と積 | 連続的な確率変数について理解し、その期待値と分散が求められる。 |
| 三 学 期 | 1 | 2節 統計的な推測 | (数B) 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。 | 母集団と標本 標本平均の分布 推定 仮説検定 | 復元抽出と非復元抽出について理解している。 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。 共通テストや各種学校の入試に対応できる。 |
| | 2 | <学年末考査> | | | |
| | 3 | | | | |
| <p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>数学Ⅱの単位が4、数学Bの単位数が2である。授業は早いペースで授業を進められる。教科書の例題や問を補習的に進めていき、問題集の問題を課題として出す。授業についていくためにも復習は必ず行いたい。基本問題だけでなく授業についていけるように応用問題も取り入れていく。問題に対応するためには、普段から問題に対してなぜそうなるのか自分で考え、苦手な学習者は何度も何度も解答を覚えるほど繰り返してほしい。自から身についてくる。寮や自宅での学習の習慣を身に付けたい。日々継続した学習を心がけてほしい。真摯な態度で受講することを強く望む。</p> | | | | | |

| | | | |
|----------|---|---|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 指名者講習 英語 | 2 | 2年1類 | 必修 |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | be English Logic and Expression I Clear be English Logic and Expression II Clear | be Clear Essential Grammar Book / 総合英語 be be English Grammar 24 | |

| |
|---|
| 科目の到達目標 |
| 英語の基礎を身に着ける。 反復練習などを通して、日々の英語の授業内容をしっかり定着させる。 英語の学習習慣が身につく。 |

| |
|---|
| 【評価の観点と方法について】 |
| 出席の状況、授業中の取り組みの態度、課題の提出の内容等を総合的に判断する。 特に出席状況と授業中の取り組みの態度を重視する。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 |
|-----|---|-----------------------------|--|--|
| 一学期 | 4 | Lesson 16 関係代名詞 | 関係詞代名詞・関係詞副詞の違いを理解し、適切に使い分けことができる。 | ワークブックを使用して教科書の問題に似た問題を解いて理解を深める。 テスト前には教科書の問題や付属のワークの問題を解き直して対策する。 |
| | 5 | Lesson 17 関係副詞・ 複合関係詞 | | |
| | | <中間考査> | | |
| | 6 | Lesson 18 原級・比較級 | 原級・比較級・最上級の使い方を理解し、適切に使い分けすることができる。比較級を用いて最上級の意味を表すことができる。 | |
| | 7 | Lesson 19 最上級 | | |
| | | <期末考査> | | |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | | |
|-------------|-----------------------------|--|---|-------------|-----------------------------|--------|
| 二 学 期 | 9 | Lesson 20 仮定法 Lesson 1 時制 | 仮定法の定義を理解し、仮定法現在と仮定法過去を使い分けることができる。 1年生で習ったことを復習し、定着を図る。 | 1学期に同じ | | |
| | 10 | <中間考査> Lesson 2 名詞句・節 Lesson 3 助動詞 | | | | |
| | 11 | Lesson 4 形容詞・分子 Lesson 5 後置修飾 | | | | |
| | 12 | Lesson 6 関係詞 <期末考査> | | | | |
| | 1 | Lesson 7 副詞 | | | 副詞のはたらきについて理解し、適切に使うことができる。 | 1学期に同じ |
| | 2 | Lesson 8 不定詞 | | | | |
| 3 | Lesson 9 副詞節 <学年末考査> | | | | | |
| | | | | | | |

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

まず、最も大切にしてほしいことは普段の授業です。授業をしっかりと受け、自ら理解しようとする気持ちがあれば、指名者講習を受けても意味がありません。この講習では、日々の論理表現の授業内容の理解及び定着を中心に授業をします。定期考査前には英語コミュニケーションの復習もします。まずは中学時代の躰きを自分で見つけ、中学校の復習をしっかりとしましょう。自分はどこに躰いているのかをはっきりさせ、わからないところは放っておかず、その日のうちに理解するようにしましょう。分からないことがあれば遠慮なく質問してください。理解してもらえるまで何度でも説明します。

| | | | |
|---------|----------------|----------------------------------|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 国公立対策講習 | 2 | 2年1類(A・B・C型) | 希望選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 国語：なし 英語：なし | 国語：共通テスト対策問題集など 英語：単語帳、プリントなど | |

| |
|---|
| <p>科目の到達目標</p> <p>国語：1、2年での学習を基礎として、国公立大学入試に対応するための力を養う。入試問題を読み解くために必要な知識や思考力を身につけ、解答を導き出す力を養う。</p> <p>英語：3年次に受験する共通テストを意識し、長文読解に必要な語彙力と文法力の習得を目指して進めていきます。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>評価の観点と方法について</p> <p>国語・英語の出席状況と積極的な授業参加、および課題や小テストへの取り組みなどをもとに、総合的に評価する。</p> |
|---|

| | 月 | 学習単元・項目 | ねらい | 方法・活動 |
|-------------|---|--------------|---|---|
| 一 学 期 | 4 | 1学期 ・問題演習 | <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> これから古文や漢文の学習を行っていくうえで必要となる基本的な文法事項を確実に身につける。 評論文と小説の読解力を身に付ける。 | <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章読解をしながら重要事項を確認していく。 同じ問題を繰り返し演習させることで、知識の定着を図る。 過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を作成する力を身につける。 短めの文章を使い、論理や心情を把握する練習を積む。 |
| | 5 | | | |
| | 6 | | <p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> 文法の土台作りに励む。 | <p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試問題などを通して、それぞれの文法項目に取り組む。基本事項を確認、復習しながら、間違った問題の原因を探る。 |
| | 7 | 夏期講習 | | |

| | 月 | 学習単元・項目 | ねらい | 方法・活動 |
|-------------|----|-------------|--|---|
| 二 学 期 | 9 | 2学期 問題演習 | 国語 ・「読む力」と「解く力」の両方をさらに伸ばし、進研模試での志望校C判定を目指す。 | 国語 ・過去の模試で出題された問題に取り組み、出題意図を踏まえながら、解く力を身につける。 |
| | 10 | | 英語 ・文法の土台作りに励む。 | 英語 ・入試問題などを通して、それぞれの文法項目に取り組み。基本事項を確認、復習しながら、間違った問題の原因を探る。 |
| | 11 | | | |
| | 12 | 冬期講習 | | |
| 三 学 期 | 1 | 問題演習 | 国語 ・制限時間内に正確に読んで、解く力を身に付ける。 | 国語 ・読解量を徐々に増やし、制限時間に文章を読み切る力を養う。 ・多様な形の思考力を問う問題を演習する。 |
| | 2 | | 英語 ・文法の土台作りに励む。 | 英語 ・入試問題などを通して、それぞれの文法項目に取り組み。基本事項を確認、復習しながら、間違った問題の原因を探る。 |
| | 3 | | | |

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

国語：授業での学習事項が基礎となります。授業内容の理解、小テスト等への取り組みだけでは足りません。できるだけ自分に合った参考書を探して読み、理解を深めてください。

英語：週に1時間の授業です。1年間では約30回しかありません。この授業を受けて、希望進路を実現できるというわけではありません。こちらが提示する課題をやり抜いてください。英語はなかなか自分の力が伸びていることを実感しにくい科目だと思いますが、私が受験指導を通して得てきたことを伝えていきたいと思っておりますので、頑張ってください。

| | | | |
|--------|------|-------------|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 私大対策講習 | 1 | 2年1類 (ABC型) | 選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | 副教材等 | |
| ***** | | ハンドアウト等 | |

| |
|---|
| <p>科目の到達目標</p> <p>私大入試に備えて、長文読解に必要な力をつける。</p> <p>大学入学後に備えて、TOEICに対応できるように、TOEIC Bridgeの問題を解く。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>評価の観点と方法について</p> <p>出席状況と積極的な授業参加、および課題や小テストへの取り組みなどをもとに、総合的に評価する。</p> |
|---|

| | 月 | 学習単元・項目 | 具体的な学習内容と方法 |
|-----|---|---------|--|
| 一学期 | | 問題演習 | 私大入試問題や過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を導き出す力を養う。 TOEIC Bridgeの問題にも取り組む。 |
| | | 夏期講習 | |

| | 月 | 学習単元・項目 | 具体的な学習内容と方法 |
|-------------|---|---------|---|
| 二 学 期 | | 問題演習 | 私大入試問題や過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を導き出す力を養う。 TOEIC Bridge の問題にも取り組む。 |
| | | 冬期講習 | |
| 三 学 期 | | 問題演習 | 私大入試問題や過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を導き出す力を養う。 TOEIC Bridge の問題にも取り組む。 |

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

スポーツでは地道な基礎練習を怠っては良いプレーはできません。一つの技を身につけるために徹底的な反復練習が必要であることは周知のことです。英語の学習においても、同様です。英語の苦手な部分をしっかり自分で復習し、新しく習う範囲は日々の予習、復習を欠かさない。また、参考書で常に知識を広げることが重要です。読解には、文法力、語彙力、日本語の常識力が必要です。英語は必ず「暗記」を必要とします。こつこつと積み上げていかなければ、何もしていないのに急に力が着くということは絶対ありません。日々の努力を期待しています。

| | | | |
|---------|----------------------------------|----------------|------------------------------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 国公立対策講習 | 2 | 3年 1類 (A・B・C型) | 希望選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 国語：ベーシックマスター他 英語：共通テスト対策用問題集他 | | 国語：みるみる覚える古文単語等 英語：LEAP 等 |

| |
|---|
| <p>科目の到達目標</p> <p>国語：共通テストの過去問題や入試過去問題の演習を重ねて学力の充実を図り、入試問題を解く力を高める。</p> <p>英語：共通テストにおいて6割以上の正答率を得るため、予想問題に慣れながら会話や長文の英語を速く読むこと、正確に聞くことができるようになるのが目標である。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>評価の観点と方法について</p> <p>国語・英語の出席状況と積極的な授業参加、および課題や小テストへの取り組みなどをもとに、総合的に評価する。</p> |
|---|

| | 月 | 学習単元・項目 | | |
|-------------|---|----------------------------|--|--|
| | | | ねらい | 方法・活動 |
| 一 学 期 | 4 | 1学期 ・問題演習 ・共通テスト問題演習 | <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を固め、入試に対応できる力を養う。 解答時間を意識して、問題に取り組む。 | <p>国語</p> <p>現代文</p> <ul style="list-style-type: none"> 速読をして要旨（文章の大枠）をつかむ。 語彙を増やし、漢字の知識を深める。 <p>古典</p> <ul style="list-style-type: none"> 古文単語や古典文法など基礎を繰り返し確認する。 <p>漢文</p> <ul style="list-style-type: none"> 句法などの基礎を確認する。 <p>※適宜、小テストの実施、課題等を課す。</p> |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | <p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期は単語の習得を徹底的に行い、共通テストレベルの問題をスピードを上げて読むための基礎を築く。解説をもとに知識を積み上げ、復習で理解を深める。 |
| | 7 | 夏期講習 | | |

| | 月 | 学習単元・項目 | ねらい | 方法・活動 |
|---|----|-------------------------------|---|--|
| 二 学 期 | 9 | 2学期 ・入試過去問題集 ・共通テスト予想問題 | 国語 ・入試過去問題やセンターの過去問題の演習を重ねて、学力の充実を図る。 ・解答時間を意識し、その感覚を身につける。 | 国語 ・問題集や入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。 ・マークシート形式や記述式などに慣れ、対応できるよう取り組む。 |
| | 10 | ・共通テスト直前対策 | ・共通テストに向けての総仕上げをする。 | ・評論・小説・古文・漢文の四問を各二十分のみやすで解けるようにする。 |
| | 11 | | 英語 ・共通テスト本番の感覚を身に付ける。 | 英語 ・共通テストの予想問題を数コマの授業時間内で本番のように解く。 |
| | 12 | 冬期講習 | | |
| 三 学 期 | 1 | 共通テスト | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| <p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>国語：昨年度より使用している古文・漢文のテキストは適宜活用し、必要であれば持参してください。</p> <p>英語：演習と復習はセットで行うことによって大きな成長に繋がります。 復習用ノートを一冊用意し、知識と経験を可視化して蓄積していくことが大切です。</p> | | | | |

| | | | |
|--------|----------------------|----------------|---|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 私大対策講習 | 2 | 3年 1類 (A・B・C型) | 希望選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | | 副教材等 |
| ***** | 国語：プリント等 英語：プリント等 | | 国語：単語帳等 英語：Vintage 3 rd Edition 等 |

| |
|---|
| <p>科目の到達目標</p> <p>国語：私立大学の過去問題・類題の演習を重ねて学力の充実を図り、入試問題を解く力を高める。</p> <p>英語：1学期は文法・語法を中心に、2学期からは長文読解を中心に、私立大学合格のための土台となる学力の定着を目指す。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>評価の観点と方法について</p> <p>国語・英語の出席状況と積極的な授業参加、および課題や小テストへの取り組みなどをもとに、総合的に評価する。</p> |
|---|

| | 月 | 学習単元・項目 | | |
|-------------|---|----------------------------|--|--|
| | | | ねらい | 方法・活動 |
| 一 学 期 | 4 | 1学期 ・問題演習 ・共通テスト問題演習 | <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を固め、入試に対応できる力を養う。 解答時間を意識して、問題に取り組む。 | <p>国語</p> <p>現代文</p> <ul style="list-style-type: none"> 速読をして要旨（文章の大枠）をつかむ。 語彙を増やし、漢字の知識を深める。 <p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> 古文単語や古典文法など基礎を繰り返し確認する。 <p>※適宜、小テストの実施、課題等を課す。</p> |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | <p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> 易しい問題を多くこなしながら解くスピードを上げ、共通テストレベルの問題に挑戦する。解説をもとに知識を積み上げ、復習で理解を深める。 |
| | 7 | 夏期講習 | | |

| | 月 | 学習単元・項目 | ねらい | 方法・活動 |
|--|----|--------------------|---|--|
| 二 学 期 | 9 | ・公募推薦・一般 過去問題演習 | 国語 ・入試過去問題の演習を重ねて、学力の充実を図る。 ・解答時間を意識し、その感覚を身につける。 | 国語 ・入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。 ・マークシート形式に慣れ、対応できるよう取り組む。 ・実際の試験時間を想定し、解けるようにする。 |
| | 10 | | 英語 ・共通テスト本番の感覚を身に付ける。 | 英語 ・共通テストの予想問題を数コマの授業時間内で本番のように解く。 |
| | 11 | | | |
| | 12 | 冬期講習 | | |
| 三 学 期 | 1 | ・一般過去問題演習 | 国語 ・問題演習を繰り返し、文章を正確に早く読解する力を身につける。 | 国語 ・時間内に正確に読解できるよう、想定より早めの時間設定で過去問題に取り組む。 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| <p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>国語：プリントや副教材を使って演習を繰り返して実力養成する。演習した問題を解いたまま放置せず、復習を2回は行うこと。必要があれば自分から例題を見つけ、解き方を理解するまで演習すること。</p> <p>英語：演習と復習はセットで行うことによって大きな成長に繋がります。 復習用ノートを一冊用意し、知識と経験を可視化して蓄積していただきます。</p> | | | | |

| | | | |
|--------------|------|----------------|-------|
| 科目名 | 単位数 | 指導学年・類・型 | 必修・選択 |
| 進学講習 (数学 IA) | 2 | 3年・I類・A, B, C型 | 選択 |
| 授業担当者 | 教科書名 | 副教材等 | |
| ***** | なし | なし | |

| |
|---|
| 科目の到達目標 |
| ・基礎～標準の問題演習で、数学 IA の総復習及び授業の演習を行う。まずは、定義や定理、公式などの基本的な事項もしっかりと確認する。 |
| さらに、代表的な標準問題を理解し、解法やテクニックを身に付ける。最終的には医療系のレベル入試問題が十分に解けるようになることを目標とする。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法について |
| 「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「表現・処理」「意識・理解」の4つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重要視して、基本的な知識の理解度、技能の習熟度、思考力、表現力を、課題プリント、レポート、小テスト 等で評価する。 |

| | 月 | 学習単元・項目 | 学習のねらい | 具体的な学習内容と方法 | 評価のポイント |
|-----|----|---------------------------|--|-------------------------------------|--|
| 一学期 | 4 | 数学 IA の問題演習 数と式 | 公式や定理などの基本事項の確認。 演習問題が解けるようになる。 | 基本事項の確認問題を解く。 演習問題に取り組む。 | 予習、復習を行っているか。 |
| | 5 | 集合と命題 2次関数 | | | |
| | 6 | 図形と計量 データ分析 | | | |
| | 7 | 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 | | | |
| 二学期 | 9 | 数学 IA の問題演習 | 実践問題が解けるようになる。 | 実践問題を用いて演習をする。 医療系専門学校の過去問演習をする。 | 予習、復習を行っているか。 |
| | 10 | 数 B 演習 | 受験が終わった生徒が増えると思われるので基礎学力者を対象に授業の補習を行う。 定期考査対策を行う。 | その他 | 授業で学習した問題が、身についているか。 問題を解く力がついていくか。 |
| | 11 | | | | |
| | 12 | | | | |
| 三学期 | 1 | 個別試験対策・授業演習 (学年末考査) | 低学力者対象の学力補充 | 個別試験問題演習 | |

| |
|--|
| その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など) |
| 毎回の授業では、予習してあることを前提とし、問題の解説を進めていく。授業を聞いているだけでは計算力、実力は絶対につかない。やらされる勉強ではなく、自ら自発的・積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力がついてくる。見せかけの勉強は必要ない。 |
| 質問は歓迎する。自分の目標を定め、それに向かって努力して、確実に実力をつけてもらいたい。 |